

横須賀美術館 平成 19 年度の運営状況について（報告）

I 来館者・観覧者等の数値について

1 平成 19 年度の達成数値

- (1) 来館者数*¹ : 386,175 人
- (2) 観覧者数*² : 165,961 人（内、有料：122,311 人 無料：43,650 人）
- (3) 観覧料収入 : 73,105,250 円
- (4) 駐車場使用料収入 : 13,289,100 円（普通車台数：44,049 台）
(バス・二輪車を含めると 45,424 台)

2 平成 19 年度目標値と達成率

- (1) 目標値
 - ①観覧者数 : 10.5 万人（対外的には 10 万人とアナウンス）
 - ②観覧料収入 : 41,131,000 円*³
 - ③駐車場使用料収入 : 12,675,000 円（普通車台数：38,000 台）
- (2) 達成率
 - ①観覧者数（対 10.5 万人） : 158.06%
 - ②観覧料収入 : 177.74%
 - ③駐車場使用料収入 : 104.84%（普通車台数：115.92%）

*1 : 来館者 : 美術館を訪れてくれた方の人数

(美術館は観音崎公園の一部であり、無料スペースもあるため)

*2 : 観覧者 : 来館者の内、展覧会を観覧いただいた方の人数

*3 : 平成 20 年第一回定例会にて、70,000 千円に増額補正 (+28,869 千円)

3 その他

- (1) 開館日 : H19.4.28
- (2) 開館以来日数 : 339 日（休館日を除く実質開館日数 : 322 日）
- (3) 観覧者 10 万人達成日 : H19.10.2（開館後 158 日目）

4 月別来館者・観覧者数一覧（達成数値の詳細）

月	開館日数 (休館日を除く)	来館者	観覧者	観覧者内訳		観覧料 収入	月別1日平均	
				観覧者 (有料)	観覧者 (無料)		来館者	観覧者
4月	3	14,496	6,231	4,468	1,763	3,403,960	4,832	2,077
5月	30	54,205	23,750	19,078	4,672	13,537,500	1,807	792
6月	29	35,528	16,081	13,027	3,054	8,777,320	1,225	555
7月	30	29,885	12,805	9,229	3,576	5,797,390	996	427
8月	30	52,489	21,366	16,269	5,097	11,728,130	1,750	712
9月	29	45,764	19,598	14,409	5,189	7,958,330	1,578	676
10月	30	36,213	15,847	13,253	2,594	7,745,770	1,207	528
11月	29	37,366	17,827	10,347	7,480	5,103,810	1,288	615
12月	27	18,224	7,155	5,528	1,627	2,631,290	675	265
1月	27	20,334	9,402	4,972	4,430	1,295,180	753	348
2月	28	18,642	6,917	4,205	2,712	1,848,640	666	247
3月	30	23,029	8,982	7,526	1,456	3,277,930	768	299
全合計	322	386,175	165,961	122,311	43,650	73,105,250		
1日平均		1,199	515	380	136	227,035		

* 平均：小数点以下、四捨五入

5 駐車場利用状況・・・詳細は『別冊1』2～3頁[3]～[6]参照

(1) 利用台数：45,424台

(2) 内訳

①普通車：44,049台 [内、観覧者：33,810台 観覧者外：10,239台]

②二輪車：1,059台 [内、観覧者：933台 観覧者外：126台]

③バス等：316台 [内、有料：191台 無料：125台]

*バス等の無料 → 学校、障害者団体、視察団体等の利用の場合

(3) 平均駐車時間

①全額自己負担の場合（観覧減免のない場合）：1時間44分

②1時間減免あり車両の場合（観覧者車両）：2時間18分（①比 +34分）

II 来館者・観覧者等の傾向について

1 来館者・観覧者の月別推移・・・詳細は『別冊1』4頁[7]参照

①多い順に、5月、8月、9月、11月、10月、6月の順

・ゴールデンウィーク、旧盆、芸術の秋が多い

②7月が少なく、12月から3月は冬枯れ傾向が見られる

2 観覧者の有料・無料比率・・・詳細は『別冊1』4頁[8]参照

・有料：無料は、概ね3：1の割合

種別	人数	率
有料	122,311	73.70%
無料	43,650	26.30%
計	165,961	100.00%

3 観覧者の詳細・・・詳細は『別冊1』5頁[9]参照

- ①有料・一般が全体の半分弱（47.66%）を占める
- ②有料・高大65歳以上が2番目（17.55%）
- ③無料・その他*が3番目（10.33%）
- ④無料・小学生が4番目（6.65%）

有料種別	観覧人数	全体比率	無料種別	観覧人数	全体比率
一般	79,104	47.66%	幼児	3,090	1.86%
一般団体	6,926	4.17%	小学生	11,038	6.65%
高大65以上	29,129	17.55%	中学生	3,048	1.84%
高大65団体	5,378	3.24%	高校生	620	0.37%
一般前売	139	0.08%	障害者	3,610	2.18%
高大65前売	24	0.01%	その他*	17,142	10.33%
一般Pass	1,243	0.75%	招待券	5,102	3.07%
高大65Pass	368	0.22%	無料計	43,650	26.30%
有料計	122,311	73.70%	全合計	165,961	100.00%

*その他は、障害者介助者、視察等を含むが、最も多いのは、条例による無料開放日（11/3、2/17）の観覧者 6,329 人と公募展観覧者 8,110 人（その内、公募展のみの観覧者は 4,256 人）

4 有料チケット（企画展・所蔵品展）比率・・・詳細は『別冊1』5頁[10]参照

・企画展：所蔵品展は、概ね 6.3：3.7 の割合

チケット種別	件数	比率
企画展	75,902	62.97%
所蔵品展	44,635	37.03%
計	120,537	100.00%

※パスポート・前売り券を除く有料チケット件数

5 図書室利用状況・・・詳細は『別冊1』6頁[11]～[12]参照

(1) 図書室利用状況

- ①利用者総数：31,666 人 [内、大人：28,115 人 子ども：3,551 人]
- ②大人・子ども比率：大人 88.79% 子ども 11.21%

(2) 図書室時間帯別利用状況（時間帯別人数と比率）

- ①10:00-12:00 5,510 人 17.40%
- ②12:00-17:00 23,739 人 74.97%
- ③17:00- 2,417 人 7.63%

6 来館者の時間帯別来館状況・・・詳細は『別冊1』7頁[13]～[14]参照

(1) 来館者時間帯別比率

- ①通常開館時間帯、サマータイム時間帯における来館者時間帯傾向に変化は認められない
- ②来館者の90%以上は、10:00-17:00 の間に来館
 - ・通年度では、94.76%が 10:00-17:00 間に来館
 - ・サマータイム期間中では 92.73%が 10:00-17:00 の間に来館
- ③来館者の75%前後が、11:00-16:00 の間に来館

(2) 時間帯別来館者数

①13:00-15:00 が来館のピーク時間帯

②16:00 を過ぎると、客足が急速に減少する

- ・ 自家用車による来館者が多く、駐車スペース確保のため早出・早帰りの傾向

7 来館者の曜日別来館状況・・・詳細は『別冊1』8頁[15]～[16]参照

①1日平均で見ても、通年度合計で見ても傾向は同じ

②来館者数、観覧者数、ともに日曜日が最も多い

③日曜日：土曜日の比率は、概ね4：3（日曜日 \div 土曜日 \times 1.35）

④土曜日は、平日の1.5倍程度 日曜日は、平日の2倍程度

⑤平日（土・日曜日以外）での曜日差はほとんどない

※天候別集計については、季節及び曜日による要因が強く、単独での分析要因にはならなかった

8 企画展別観覧者数、目標達成の状況・・・詳細は『別冊1』9頁[17]参照

①6つの企画展中、4展覧会は、目標値を超える実績を上げた

- ・ 2つの展覧会において、目標の2倍以上の実績を上げた

②残りの2展覧会は、目標値を下回ったが90%前後の達成率となった

9 展覧会観覧者の延べ人数・・・詳細は『別冊1』9頁[18]参照

①3つの展覧会の観覧者の延べ人数合計は、約39.3万人に達した

②最も多かったのは、所蔵品展で、約15.2万人が観覧

- ・ 2番目は谷内展で、約12.3万人

- ・ 3番目が企画展で、約11.8万人

10 団体の状況・・・詳細は『別冊1』10頁[19]参照

①5月の連休（GW）明けより団体の受付を開始し、3月末までに348団体の来館（観覧）を得た

- ・ 内、有料観覧の団体数：237団体

- ・ 内、無料観覧の団体数：111団体（学校、障害者団体、視察等）

②団体での観覧者数は、15,315人

- ・ 内、有料観覧の団体数：8,803人

- ・ 内、無料観覧の団体数：6,512人

③団体人数の月別推移を見ると、6月、10月、11月が多く、5月、8月、2月が少ない（団体数においても、ほぼ同様の傾向となっている）

- ・ 5月、8月は家族旅行等が多いシーズンであり、10月、11月は、旅行会社等によるツアー客の多いシーズンである

※当該傾向は、『別冊1』の13頁[26]（来館者の市内・市外比率の推移）や、16頁[32]のテレビ放送、雑誌掲載の実績と深い関連性を示すものと考えられる

11 パスポート券、前売券の状況・・・詳細は『別冊1』10頁[20]参照

①初年度のため、パスポート券・前売券ともに、販売開始は7月1日

②パスポート券の状況

- a. 販売実績（場所）は、美術館が 87.01%、劇場が 12.99%
- b. 一般券と高大 65 歳以上の比率は、一般が 77.11%、65 歳以上が 22.89%
- c. 2 回以上利用したお客様は、全体の 65.26%
平均利用回数は、3.19 回／人（未利用者を含む平均値）
10 回以上利用された方が、全体の 5.43%
- d. パスポート券所有者が同伴したお客様の数が 334 人

③前売券の状況

- a. 販売総数は 199 枚
- b. 劇場での販売が、パスポート券の場合よりも多く、全体の 45.23%

*パスポート券・前売券ともに、H20.3 月中に H20 年度分の売り上げ
が出ているが、利用実績集計との整合性上、集計には含めていない

12 教育普及事業の状況・・・詳細は『別冊3』及び『別冊1』11～12頁[21]～[23]参照

(1) 団体対応等の状況

①実績： 198 団体（回） 5,011 人

②内訳

- a. ギャラリートーク： 43 回 364 人
- b. 団体対応： 153 回 4,572 人
- c. 出張講座： 2 回 75 人

(2) 学校連携の状況

①実績： 77 校* 4,876 人

②内訳

- a. 児童・生徒数： 4,616 人
- b. 引率教諭数： 260 人

*校数は延べ数（複数回参加している学校がある）

(3) ワークショップ（WS）の状況

①実績： 41 回 2,215 人

②内訳

- a. アーティストトーク： 5 回 292 人
- b. 講演会： 10 回 446 人
- c. 対談： 2 回 65 人
- d. パフォーマンス： 2 回 750 人
- e. 展示解説： 1 回 25 人
- f. 映画上映会： 1 回 31 人
- g. ワークショップ： 20 回 606 人

Ⅲ 来館者アンケート集計結果について

アンケートの集計に関する基本的事項・・・詳細は『別冊1』12頁[24]参照

- ・アンケートは来館者・観覧者のどちらも記載可能であるが、便宜上、以下の項目名記述を「来館者」で統一する

1 来館者の居住地・・・詳細は『別冊1』13頁[25]参照

①市内からの来館者：45.05%

市外からの来館者：54.95%

②市内・市外比率の推移

- ・開館当初（4、5月）は、市内からが約69%、市外からが約31%であったが、徐々に市外からの来館者率が高まる傾向を示した

2 交流都市推進に関する推計・・・詳細は『別冊1』13頁[26]参照

①市内・市外比率の推移

- ・4月、5月は市内からの来館が多かったが、7月でほぼ半々となり、8月に逆転
- ・再び9月でほぼ半々となったが、10月以降に再逆転し、差が広がる傾向を示した
- ・1月（公募展開催時期）で再逆転するも、2月、3月は再々逆転し、更に差が広がった

*3月では、81.63%が市外からの来館者（市内からは18.37%）

②交流人口数推計

- ・通年で算出（推計）すると、来館者ベースでは、212,203人、観覧者ベースでは、91,196人が、市外からの来館者推計値となる。

③市外（県内）及び都内を除く地域（その他地域：9.59%）の内訳

- ・176件の具体的記述があり、国内27道府県からの来館があった

3 来館回数・リピート率等の状況・・・詳細は『別冊1』14頁[27]参照

①初めての来館者は、全体の 81.45%

2回目の来館者は、全体の 11.02%

3回目の来館者は、全体の 3.44%

4回以上の来館者は、全体の 4.09%

②2回目以上の来館者（リピーター）は、全体の18.55%

*本稿5頁11のパスポート券の利用状況を見ると、リピーターは、多くの回数、美術館を訪れる傾向が強いと言える

4 来館者の属性（性別）・・・詳細は『別冊1』14頁[28]参照

①男性の来館者は、全体の40.17% 女性は、59.83%

②女性客の割合は、男性客の約1.5倍

5 来館者の属性（年齢層）・・・詳細は『別冊1』15頁[29]参照

- ①一番多い世代は、60歳代、次いで50歳代
- ②全世代にわたり、概ねバランスよくご来館いただいている
- ③季節によって、来館者の年齢層比率が推移する傾向が出ている

6 来館者の交通手段・・・詳細は『別冊1』15頁[30]参照

- ①自家用車の利用が全体の56.36%
京急線+バスもしくはタクシー利用が、26.81%（馬堀海岸、浦賀、横須賀中央
駅利用の合計値）
JR線+バスもしくはタクシー利用が、4.30%
路線バスのみは2.92%、貸切バスは2.75%、その他が6.87%
- ②季節によって、交通手段の比率が推移する傾向が出ている

*データ取得開始時期が9/18以降のため、継続的なデータ取得が必要との認識

7 来館者の美術館認知手段（広報媒体）・・・詳細は『別冊1』16頁[31]参照

- ①友人など（いわゆる口コミ）が全体の21.07%
次いで、新聞・雑誌が全体の20.91%
チラシが、18.41%
駅等（ポスター）及びホームページが、ともに10.81%
広報紙は2.82%、その他が12.04%
- ②開館当初は、チラシや駅等（ポスター）が高い率を占めていたが、8月以降、急速に友人など（いわゆる口コミ）が急増した。
これは、下記「取材等による広報実績」の効果により、情報が「人づて」に広まって行ったものと思われる。
- ③その他の内訳は、テレビが過半数を占めている。

8 取材等による広報実績・・・詳細は『別冊1』16頁[32]参照

- ①新聞・雑誌等の取材総数：288件
・内訳は、新聞が60件、Web（各種インターネットサイト）が29件、雑誌が199件
- ②テレビ・ラジオ放送総数：31件
・内訳は、広報扱いのラジオ放送が12件、局取材によるものが3件の合計15件
民法テレビが12件、NHKが4件の合計16件
・特に、NHKによる放送の広報的効果は絶大であった
- ③ラジオ放送12件（FMヨコハマ）以外は、すべて「取材」のため経費はゼロ。
市内・市外を問わず、大きな宣伝効果を上げることに成功した取り組みと言える。
- ④上記以外に、40件の行政財産目的外使用許可による撮影があり、すべてではないが、横須賀美術館である旨のキャプションを入れるなどしてもらっている。
歳入額が38万円となっており、効率的・効果的な広報手段となっている。

9 附帯施設の感想・・・詳細は『別冊1』17頁[33]参照

(1) ミュージアムショップ

- ①とても満足、まあ満足が、 43.53%
- ②やや不満、とても不満が、 13.66%
- ③利用していない（未利用率）が、 7.40%

(2) レストラン

- ①とても満足、まあ満足が、 37.41%
- ②やや不満、とても不満が、 16.86%
- ③利用していない（未利用率）が、 17.33%

(3) 図書室

- ①とても満足、まあ満足が、 37.20%
- ②やや不満、とても不満が、 6.82%
- ③利用していない（未利用率）が、 37.20%

10 企画展の感想・・・詳細は『別冊1』17頁[34]参照

- ①「生きる展」以外の傾向は、ほぼ同じ
- ②やや不満が10%を超えたのは「生きる展」と「公募展」
- ③とても不満が10%を超えたのは「生きる展」のみ

11 所蔵品展の感想・・・詳細は『別冊1』18頁[35]参照

(1) 所蔵品展

- ①とても満足、まあ満足が、 56.75%
- ②やや不満、とても不満が、 16.59%
- ③観覧していないが、 3.34%

(2) 谷内展

- ①とても満足、まあ満足が、 63.11%
- ②やや不満、とても不満が、 7.77%
- ③観覧していないが、 11.95%

12 その他（アンケート自由記載欄の傾向）・・・詳細は『別冊2』参照

(1) H19年度前半

- ①評価系＋再認識系のご意見が、 23.47%
- ②要望・提言系のご意見が、 34.08%
- ③苦言・苦情系のご意見が、 42.45%

(2) H19 年度後半

- ①評価系＋再認識系のご意見が、 61.92%
- ②要望・提言系のご意見が、 11.17%
- ③苦言・苦情系のご意見が、 26.91%

(3) 割合の変化

- ①評価系＋再認識系のご意見：23.47% → 61.92% (+38.45 ポイント)
- ②要望・提言系のご意見：34.08% → 11.17% (△22.91 ポイント)
- ③苦言・苦情系のご意見：42.45% → 26.91% (△15.54 ポイント)

13 参考（レストラン・ショップの利用状況）・・・詳細は『別冊1』19頁[38]参照

- ①利用者比率 レストラン：ショップ ≒ 57%：43%
 - ②通年利用者数 レストラン：54,251人 ショップ：40,914人
- ※売り上げは、各法人の確定申告後に報告を受ける予定

14 まとめ

(1) 当該集計によって判明した事柄

- ①集計より得られた、来館者・観覧者の傾向
 - a. 美術館の立地場所柄、春から秋までの来館者、観覧者が多く、冬季には減少する傾向となっている。[別冊1 4頁[7]]
 - b. 来館者のピーク時間帯は、13:00-15:00であり、サマータイム期間であるなしを問わず、傾向に変化は見られない。[別冊1 7頁[13]～[14]]
 - c. 来館者、観覧者が最も多いのは日曜日であり、土曜日の1.3倍程度となっている。[別冊1 8頁[15]～[16]]
 - d. 団体客は、6、7、10、11月に多く、ゴールデンウィークや夏休み等を避けた時期に多くなっている。[別冊1 10頁[19]]
- ②アンケート調査より得られた、来館者・観覧者の傾向
 - a. 来館者は、市内より、市外からのお客が多い。[別冊1 13頁[25]～[26]]
 - b. 60歳代、50歳代のお客が多いが、季節によって来館者の世代構成が変化する。[別冊1 15頁[29]]
 - c. 美術館認知手段（広報媒体）は当初は、ポスターやチラシ等が圧倒的であったが、8月以降は、友人等を介した「口コミ」が急速に増加している。[別冊1 16頁[31]]

(2) 今後の課題

①来館者・観覧者傾向を受けての検討課題

- a. 開館時間、閉館時間の見直しに関する検討（サマータイム制を含む）
… 顧客サービスを低下させることなく、管理経費が削減できるかを検討する。
- b. 季節感、客層（世代等）をふまえた展覧会企画の必要性
… 家族連れや子どもの多い時期と、成人の団体客が多い時期では、好まれる展覧会内容（趣向）が異なるとの前提に基づき、展覧会企画を立案する。
- c. 市外への広報周知の更なる充実と市内居住者への再周知による集客促進
… 市外への広報手段として、雑誌等の効果が大きかったことを受け、取材、撮影等の更なる充実を図るため、利用者への働きかけや利便性等の向上策を検討する。

②アンケート調査を受けての検討課題

- a. 設備面での検討課題
… 来館者の安全に関わる対応策を最優先としつつ、実現性、経費面等を勘案して取り組むこととする。
案内表示等についても、要望の多い部分から改善を図ることとする。
- b. 展示面での検討課題
… 作品保護と観やすさ（ガラス面の映りこみ等）は、相反する側面を持つが、低反射の保護板に変更する等の計画的取り組みを行う。
- c. 附帯施設に関する検討課題
… 各経営主体者との情報共有を密にし、顧客サービス向上への取り組みを継続実施する。
- d. 来館者サービスに関する検討課題
… 受付、展示監視に関する要望、苦情は相反する内容も多く、一律的に対処する事が難しい側面もあるが、教育訓練等を積み重ね、更なる改善策を検討実施する。
休憩場所やレストラン以外の提供方法、場所等について検討を重ね、実現可能な方策を実施する。

【今後の方針】

- ・集計データは、1年に満たない状況であり、3年程度の数値を得た段階で、全体傾向が把握できるものとの認識に基づき、今後も継続してデータ収集を行う方針。
- ・アンケートデータは、展覧会のように個別の事項もあるが、継続的な推移を見ることのできる事項もある。
また、来館者・観覧者のニーズを把握するためにも重要であり、今後も継続してデータ収集を行い、改善に反映させる方針。